



04

総合戦略

総合戦略策定の趣旨と目的

総合戦略の目指すもの

基本目標と施策の展開方向

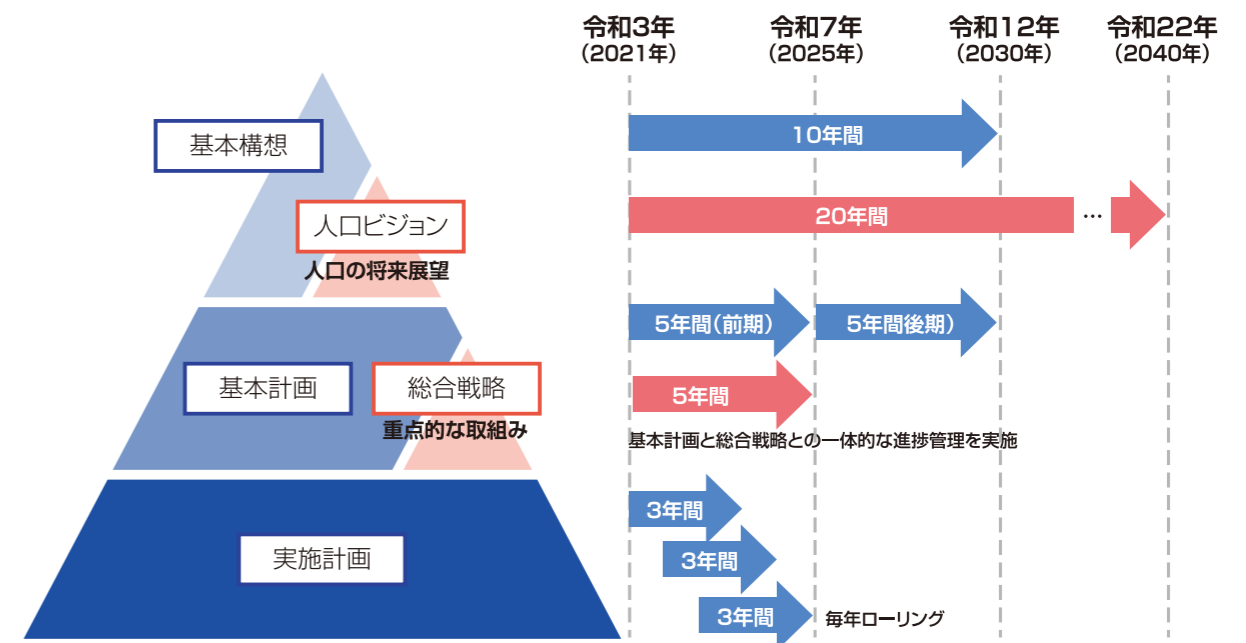
総合戦略策定の趣旨と目的

国は、将来にわたって活力ある地域社会の実現と、東京圏への一極集中の是正を目指し、平成26(2014)年に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。令和元(2019)年に、地方創生の意識や取り組みを継続・強化するために、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されたことから、本町においても「第2次長泉町まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下「第2次総合戦略」という。)を策定するものです。

総合戦略の位置づけ

本町の最上位計画である「第5次長泉町総合計画」では「みんなでつくる 輝きつづける “ちょうどいい” まち ～優しく育む 豊かで安心な ながいすみ～」を目指すまちの姿として取り組みを推進していきますが、「第2次総合戦略」では、この流れをより一層強化し、本町のまち・ひと・しごと創生と好循環の確立を目指します。

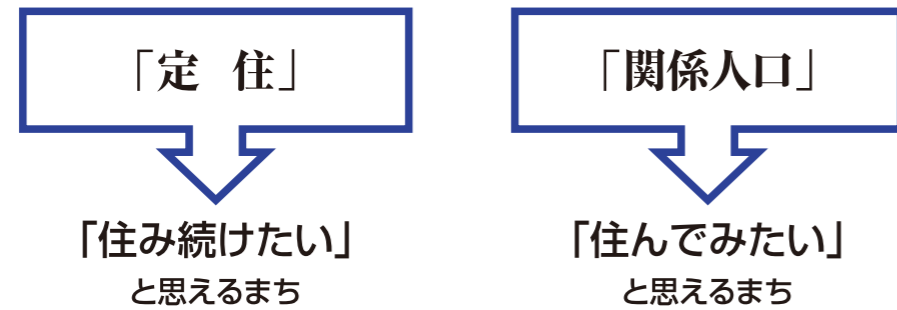
そのため、「第5次長泉町総合計画 前期基本計画」における、人口減少対策や地方創生に関する取り組みを集約し、総合戦略として位置付けることで、一体的な進捗管理を行い、総合的かつ計画的に取り組みを推進します。



総合戦略の目指すもの

総合戦略は、町の最上位計画である総合計画の中に位置付けられており、「目指すまちの姿」や「施策大綱」を踏まえるものとします。

また、本町は現時点で人口は減少に転じていないものの、中長期的には減少することが見込まれていることから、今後は若者を中心とした「定住」と長泉町に訪れ、様々な活動を通じて長泉町を好きになってもらう「関係人口」を戦略のポイントとします。



基本目標

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で示す4つの政策分野を踏まえるとともに、第1次総合戦略からの継続性を勘案し、4つの基本目標と2つの横断的な目標を設定します。

また、「第5次長泉町総合計画 前期基本計画」における、人口減少対策や地方創生に関する取り組みを集約し、人口の将来展望で目標に掲げる人口44,000人程度の維持(令和12(2030)年)を達成するための取り組みを展開します。

基本目標1 安定した雇用を創出する	横断的な目標	
基本目標2 新しい人の流れをつくる	多様な主体による まちづくりへの参画の促進	新しい時代の流れを力にする
基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる		
基本目標4 快適で安心な暮らしをつくる		

基本目標と施策の展開方向

総合計画は町の最上位計画であり、今後10年間の大きな方向性を示すものですが、総合戦略は、その中でも特に人口の維持及び地方創生を目的としているものです。

この計画では、長泉町まち・ひと・しごと創生総合戦略を重点施策と位置づけ、それらの取り組みを重点的に進めることとします。

基本目標1 安定した雇用を創出する

企業誘致の推進や、起業支援、既存産業の振興と新たな産業の創出を図り、産業の活力を高め、安定した雇用の創出を図ります。

農業の担い手の確保や、地産地消の推進等により、安定的で持続的な農業生産活動を支援するとともに、市内の特産品の情報発信やブランド化による産業振興を進めます。

施策の展開方向

- ◇ サテライトオフィスの誘致やコワーキングスペースの設置等による多様な働き方の支援
- ◇ 起業やダブルワーク、中小企業の業態転換に対する支援
- ◇ 中小企業や小売店の経営基盤強化及びデジタル化の支援
- ◇ ファルマバレープロジェクトと連携した企業誘致の推進
- ◇ 既存ブランド認定品の情報発信、販路拡大及び新たな農畜産物のブランド化の推進

成果指標	現状値	目標値(2025)
製造品出荷額	4,441億円	4,500億円
町による支援(相談・起業資金支援等)を受けて起業した年間件数	6件	10件

基本目標2 新しい人の流れをつくる

大学進学等による転出を抑制するための通学支援や町内での就職する者への支援等により、若者の定住を促進します。

また、多様な働き方に対応した環境整備や桃沢エリアの地域資源の活用等により、本町に継続的に多様な形で関わる関係人口の創出・拡大に取り組みます。

施策の展開方向

- ◇ まちの将来を担う未来人に対する支援の充実
- ◇ 「桃沢エリア」の豊かな自然環境、野外活動施設、スポーツ施設等を活かした観光ブランド化の推進及びそれらの情報発信を契機とした関係人口創出の推進
- ◇ 魅力ある小売店と地域との連携による新たなにぎわい交流イベントの創出

成果指標	現状値	目標値(2025)
人口の社会移動、転入超過数	転入超過	転入超過を維持
観光交流客数	287千人	320千人

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

妊娠期から切れ目のない支援による子育て環境を充実させるとともに、地域全体で子育てを支える機運を醸成し、子育て世代に選ばれ続けるまちづくりを進めます。

また、質の高い学びを実現する教育環境の充実により、未来を拓く人材が育成される環境を整備します。

施策の展開方向

- ◇妊娠期から出産、子育て期にわたる切れ目のない支援のための母子保健サービスの充実
- ◇子育て支援センターの適切な管理運営による親子の良好な遊びや学びの場、交流の場の提供
- ◇多様な子育てニーズに対応するためのファミリー・サポート・センター事業や病児保育事業の充実
- ◇男性が子育ての担い手として積極的に子育てに関わるための取り組みの充実

成果指標	現状値	目標値(2025)
子育て支援が充実していると思う子育て世代の割合	—	概ね75%を維持
待機児童数	2人	0人を維持

基本目標4 快適で安心な暮らしをつくる

地域交通の維持・確保を進めるとともに、既存の公共施設等を活用し、質の高い暮らしのためのまちの機能の充実を図り、魅力的な地域づくりを進めます。

また、急速な高齢化にも対応し、全ての町民が地域において安心して暮らすことができるよう、医療・福祉サービス等の機能を確保するとともに、地域における防災・減災や地域の交通安全の確保を図ります。

施策の展開方向

- ◇コミュニティバスの拡充・再編を軸とした新たな公共交通網の整備
- ◇豊かな自然の緑や水辺の保全と市街地における緑化の推進
- ◇自助・共助・公助による災害対策の充実強化
- ◇河川・水路・道路・公園等の整備による治水対策等の防災機能の強化

成果指標	現状値	目標値(2025)
公共交通が充実していると思う町民の割合	—	22%
今後も町内に住みたい町民の割合	82.2%	概ね80%を維持